

おおやまにのとりいかんけいしりょうしゅう

#27 「大山二ノ鳥居」関係史料集

作者：雨岳文庫を活用する会（うがくぶんこをかつようするかい）

刊行：平成27年（2015）



解題

■ 内容

『「大山二ノ鳥居」関係史料集』は文化庁が実施した「文化遺産を活かした地域活性化事業」の補助事業を、伊勢原市文化遺産活用実行委員会が受け、NPO法人「雨岳文庫を活用する会」が「雨岳文庫所蔵の古文書調査」として平成24年度から実施した「大山二ノ鳥居関係の古文書」をまとめたもので、「原本」、「釈文」の2冊で構成されている。



[K17.64/59/1・2]

「原本」は、伊勢原市上粕屋の山口匡一家所蔵文書（雨岳文庫資料ともいう。以下、山口家文書）を中心に、伊勢原市教育委員会所蔵、長塚マキ家所蔵、金沢文庫所蔵の文書を補填して鳥居建立の経緯が分かるように編集されている。「釈文」は、「原本」収載の史料について、釈文、註、大意が施され、文意を把握しやすいようになっている。また、巻頭には川島敏郎による「人・モノ・心が行き交う大山道と石造大山二ノ鳥居」が掲載されている。これは川島が2007年から2009年にかけて行った伊勢原市内の道標悉皆調査の内容や石造りの大山二ノ鳥居建立の経緯等について書かれたものである。

石造りの二ノ鳥居建立の経緯については断片的な史料しかなく、不明の部分が多かったが、最近になって発見された山口家文書をはじめとする史

第3章 思想・宗教

料を通時的にまとめ、その全貌を明らかにしたものであることから、価値のある史料集であると言える。

■ 作者

「雨岳文庫を活用する会」は雨岳文庫が所蔵する資料を調査、整理、保存し、また、これらに関連した講演会・研究会の開催などを通じて社会に貢献することを目的として活動しているNPO団体である。

大山二ノ鳥居建立の経緯についての資料が発見された山口家は、相州上粕屋村（現・伊勢原市上粕屋）の大山街道に面して、近世中期より名主を務め、江戸中期の旗本である間部詮之以後、代々間部家の家政を担当していた。その住宅は天保5年頃の建築とされており、その住宅と敷地を含む2万点近くに及ぶ歴史資料の総称を雨岳文庫としている。

雨岳文庫が所管する山口家文書には、旗本・間部氏関係史料、自由民権運動関係史料、帝国農会・産業組合関係史料を中心とする大正から昭和10年代までの農政史料などがある。

参考文献

『相州大山』内海弁次著 神奈川新聞社 1996 [K17. 64/44]

「石造の大山二ノ鳥居建立」（『伊勢原市史 通史編3 近現代』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 2015）[K21. 64/7/1-3]

「伊勢原市内の大山道と石造大山二ノ鳥居」（『相州大山信仰の底流：通史・縁起・靈験譚・旅日記などを介して』川島敏郎著 山川出版社 2016）[K17. 64/58]

「石造大山二ノ鳥居の建立と民衆の躍動」（『大山詣り』川島敏郎著 有隣堂 2017）[K17. 64/61] [163. 1/143]

『雨岳文庫データベース』（http://lib.kait.jp/index.php?page_id=1044）

※雨岳文庫が所蔵する歴史史料について、神奈川工科大学と雨岳文庫を活用する会が共同してデータベース化したもの。神奈川工科大学学術情報リポジトリで公開されている。